

【きらめいて】

沖繩県 港川中学校

二年

呉屋こや

優斗ゆうと

水道・ガス・電気この三つの中でないと困るのは？ふと考えたことがある。

どれも無いと困るのだが、僕の結論から言えば一番困るのは水道です。例えば断水になったとき、水道の蛇口をひねっても水はでません。汚れた食器を洗うことも、トイレの水を流すことも、お風呂に入ることさえ出来ないのです。水がないという事が、どれほど深刻な問題なのか想像しただけで分かります。飲料水は市販のものを利用して、最も不安に思ったのがトイレです。調べてみたところ、水洗トイレを一回流すのに必要な水の量は、六リットルだそうです。二リットルのペットボトルで三本です。以前四時間程断水したことがあり、僕は家族四人のために二リットルのペットボトルの水を六本トイレに準備しておきました。結局誰もトイレを利用することはありませんでした。家族で使用するには不足していたということになります。僕を含め親世代も蛇口をひねれば水があふれ出てくる豊かな時代を生きているいざとなった時慌てないためにも、水の確保の仕方など知っておくことは、必要不可欠だと思いました。

これを機に水のことについて色々調べてみました。現在世界で約七億人の人々が、水不足の状況の中で生活しています。さらに毎年百八十八万人もの子ども達が、不衛生な水が原因とされる病で命を落としています。水不足の大きな要因は、僕達の生活が豊かになりその生活を支えるために水の使用量が増加したためです。もうひとつが、安全な水の確保が出来ていない国や地域があまりにも多いということです。特に半数近くがアフリカ諸国に集中しています。泥や細菌、動物のふん尿が混ざった危険な水です。それでも必要なのです。生きるために。しかし、生きるためのその水は、衛生的ではない

ので、特に免疫力の弱い多くの乳幼児が感染症などで命を落としています。水は命の源。直接的にも間接的にも命を支える最も重要な資源なのです。

水不足で衛生的な水を確保できない国や地域に、日本からも多くの方々がボランティアで井戸を掘る活動をしています。ある日テレビを見ると、とても感動的な場面が映し出されていました。完成した井戸からきれいな水が出てきたときです。子ども達のキラキラ輝く瞳と満開の花のような笑顔に、とても感動している僕がいました。そこにいる誰もがきらめいていました。

僕には離島に住む祖母がいて、その祖母が子どもの頃の話です。島には井戸や水道がまだ普及していませんでした。唯一湧き水が出る場所があり、島の住民たちは飲み水や生活用水として利用していたそうです。祖母の家から往復三時間程の道のりを歩き、二往復も当たり前で、頭にタライやバケツを乗せて行き交う人々。それが日常で「みんな同じ事をやっていたから頑張ることが出来た。」そう話す祖母。世界では今でも多くの子ども達が、祖母達と同じように遠い道のりを歩いています。

僕たちは蛇口をひねれば、水がほとぼしる程出てくる環境の中で生活しています。一人一人が一滴の水の大切さを知り、今の自分に出来ることを実行してほしいと思います。小さな積み重ねこそが重要です。僕は出しっ放しをやめることから始めたいと思います。祖母たちに明るい未来が待っていたように、世界で水不足に悩まされている沢山の人々に幸せが訪れることを願っています。全ての人々にきらめきを与えてください。

